

# 首都圏在住者の観光の動向と 奈良県への観光に関する調査

奈良県は2005年10月に「21世紀の観光戦略」を打ち出し、その中で2010年の宿泊者数を500万人（2003年に比べ約1.5倍）とする目標値を掲げている。

一般的に、滞在時間が多いほど観光客が観光地で消費する金額も増えるから、消費する金額は日帰り観光よりも宿泊観光の方が多くなることが多い。したがって、県内の観光活性化のためには、観光客、特に宿泊観光客を増やすことは有効であると思われる。

奈良県の宿泊観光客の動向をみると、首都圏在住者が4割近くを占めている。また、首都圏は人口の絶対数も多いことから、今後も引き続き宿泊観光客の大きなマーケットの一つと考えられる。

そこで、平城遷都1300年祭の開催（2010年1月）まで1年余りとなった今、首都圏在住者の「観光の動向」と「奈良県への観光に関する実態」等を把握して、平城遷都1300年祭やその後の奈良県観光の活性化の一助とすべく本調査を実施した。

## 1 調査の概要

本稿は、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）在住者に対してインターネットを利用してアンケート調査を実施し、その結果をまとめたものである。

### <調査の概要>

#### （1）調査実施時期

○平成20年8月1日（金）～5日（火）

#### （2）調査対象者

○20歳以上の首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）在住者

#### （3）調査方法

○「Yahoo! リサーチモニター」に登録し

ている者に対し、アンケートを掲載したホームページのURLを添付したEメールを送付し、インターネット上で回答してもらい集計した。

#### （4）回答者の概要

○依頼対象数：1,770人（4都県への割合は人口割合により按分）

○回収サンプル数：676人（回収率：38.2%）

○男女別：男性347人、女性329人

○在住地別年齢別内訳：以下の表の通り

## 2 国内旅行全般について

本稿における「観光」には、「修学旅行」を含め、「商用出張」を除いている（以下同じ）。また、すべての回答項目において「不明」の回答はなかった。

### 1. 希望する旅行タイプ（複数回答）

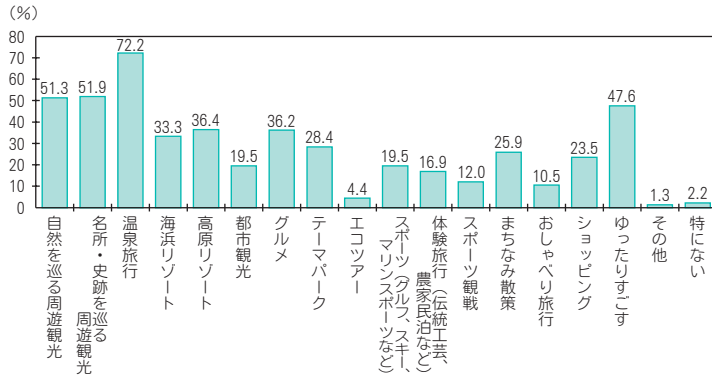
宿泊を伴う旅行をする場合、どのような旅行タイプを希望するかを複数回答で尋ねたところ、最も多かったのが「温泉旅行（72.2%）」だった。次いで「名所・史跡を巡る周遊観光（51.9%）」、「自然を巡る周遊観光（51.3%）」となり、上位3位は50%を上回った。一方で、「エコツアー（4.4%）」、「おしゃべり旅行（10.5%）」、「スポーツ観戦（12.0%）」、「体験旅行（16.9%）」は少数だった。

近年、農家民泊などの体験旅行やエコツアーと

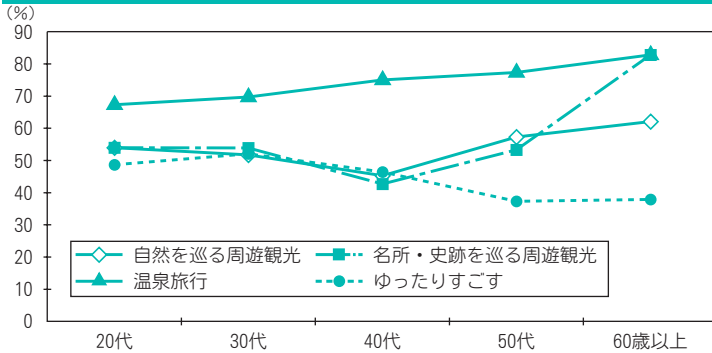
回答者都県別年齢別内訳（単位、上段：人、下段：%）

	20代	30代	40代	50代	60歳以上	全体
東京都	49	102	69	30	11	261
	18.8	39.1	26.4	11.5	4.2	100.0
神奈川県	28	69	50	20	6	173
	16.2	39.9	28.9	11.6	3.5	100.0
埼玉県	16	53	38	12	8	127
	12.6	41.7	29.9	9.4	6.3	100.0
千葉県	20	43	35	13	4	115
	17.4	37.4	30.4	11.3	3.5	100.0
合計	113	267	192	75	29	676
	16.7	39.5	28.4	11.1	4.3	100.0

### 希望する旅行タイプ（複数回答）



### 希望する旅行タイプ（年代別、複数回答、一部抜粋）



いった新しい形の観光が注目されているが、アンケート調査からは、まだまだ旧来型の観光形態といわれる「周遊観光」へのニーズが高いように思われる。

上記項目トップの4項目を年齢別にみると、「温泉旅行」はどの年代でもトップであるが、年齢に比例して割合は高くなっている。「自然を巡る周遊観光」は、どの年代でも多く、年齢による

大きな差異は見られない。「名所・史跡を巡る周遊観光」は60歳以上が82.8%と特に多い。また、「ゆったりすごす」は20代、30代、40代の割合がやや高くなっている。

## 2. 重視する観光情報源

宿泊旅行をする場合、旅行先を決定する際に重視する観光情報源について複数回答で尋ねた。

最も多かったのが「インターネット（携帯電話を含む）」の67.8%であり、以下「旅行ガイドブック」（54.3%）、「旅行雑誌（広告含む）」（42.9%）、「観光地のパンフレット」（38.8%）となっている。

「インターネット（携帯電話を含む）」は、迅速、簡単、安価（無料）などの利便性・経済性が評価されているものと思われる。また、「インターネット」にはブログ等々に書き込まれた「ネット口コミ」も含まれていると思われる。さらに本調査が、イン

ターネット調査であることも統計上プラスに影響しているものと考えられる。一方、「ラジオ番組（コマーシャル含む）」（2.4%）、「ダイレクトメール」（3.7%）、「イベント」（8.9%）、「旅行エージェント」（10.4%）、「電車や駅の広告」（12.0%）は低調だった。

年齢別にみると、20代、30代、40代、50代で

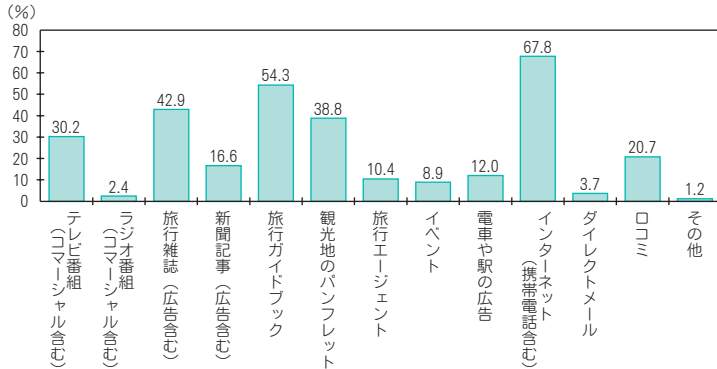
### 希望する旅行タイプ（複数回答）

（単位、上段：人、下段：%）

	合計	自然を巡る周遊観光	名所・史跡を巡る周遊観光	温泉旅行	海浜リゾート	高原リゾート	都市観光	グルメ	テーマパーク	エコツアー	スポーツ（ゴルフ、スキー、マリンスポーツなど）	体験旅行（伝統工芸、農家民泊など）	スポーツ観戦	まちなみ散策	おしゃべり旅行	ショッピング	ゆったりすごす	その他	特にない
全体	676	347	351	488	225	246	132	245	192	30	132	114	81	175	71	159	322	9	15
	100.0	51.3	51.9	72.2	33.3	36.4	19.5	36.2	28.4	4.4	19.5	16.9	12.0	25.9	10.5	23.5	47.6	1.3	2.2
20代	113	61	61	76	40	36	34	46	40	6	31	31	21	32	19	40	55	0	2
	100.0	54.0	54.0	67.3	35.4	31.9	30.1	40.7	35.4	5.3	27.4	27.4	18.6	28.3	16.8	35.4	48.7	0.0	1.8
30代	267	138	144	186	103	103	50	98	87	11	49	53	42	70	33	74	139	3	8
	100.0	51.7	53.9	69.7	38.6	38.6	18.7	36.7	32.6	4.1	18.4	19.9	15.7	26.2	12.4	27.7	52.1	1.1	3.0
40代	192	87	82	144	59	68	31	76	50	10	32	26	15	47	17	36	89	2	2
	100.0	45.3	42.7	75.0	30.7	35.4	16.1	39.6	26.0	5.2	16.7	13.5	7.8	24.5	8.9	18.8	46.4	1.0	1.0
50代	75	43	40	58	19	31	7	16	14	1	15	3	2	16	2	6	28	4	3
	100.0	57.3	53.3	77.3	25.3	41.3	9.3	21.3	18.7	1.3	20.0	4.0	2.7	21.3	2.7	8.0	37.3	5.3	4.0
60歳以上	29	18	24	24	4	8	10	9	1	2	5	1	1	10	0	3	11	0	0
	100.0	62.1	82.8	82.8	13.8	27.6	34.5	31.0	3.4	6.9	17.2	3.4	3.4	34.5	0.0	10.3	37.9	0.0	0.0

特集

重視する観光情報源（複数回答）



はインターネットがトップであるが、60歳以上では「新聞記事（58.6%）」がトップである。また、60歳以上では他の年代と比較して「旅行エージェント」や「ダイレクトメール」の割合も高い。一方、20代、30代の若年世代の特徴としては、「口コミ」や「電車や駅の広告」の割合が高かった。

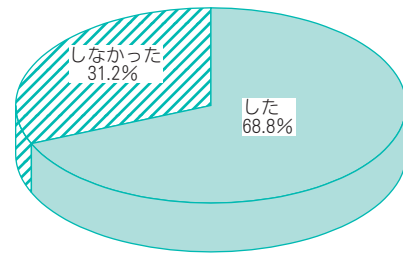
3. 過去1年間の国内宿泊旅行の有無

概ね過去1年以内に宿泊を伴う国内旅行（1年間に複数の旅行をした場合は直近のもの1つを回答）をしたかどうかについて尋ねたところ、国内宿泊旅行をした人は68.8%で、国内宿泊旅行をしなかった人は31.2%だった。年齢別による大きな差異は見られなかった。

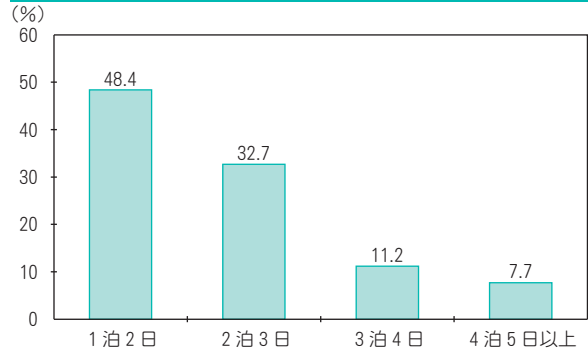
国内宿泊旅行をした人（465人）を行程日数別に分けると、「1泊2日」が最も多く、全体の48.4%と半数近くを占めた。次いで「2泊3日」の32.7%、「3泊4日」の11.2%となった。

なお、年齢別に見た場合、30代で「1泊2日」と「3泊4日」の割合が比較的高い。

国内宿泊旅行の有無（過去1年間）



国内宿泊旅行の行程（過去1年以内）



国内宿泊旅行の行程（過去1年以内）（単位：上段：人、下段：%）

	合計	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日以上
全体	465	225	152	52	36
	100.0	48.4	32.7	11.2	7.7
20代	76	37	26	6	7
	100.0	48.7	34.2	7.9	9.2
30代	183	96	45	28	14
	100.0	52.5	24.6	15.3	7.7
40代	132	57	55	11	9
	100.0	43.2	41.7	8.3	6.8
50代	53	26	20	2	5
	100.0	49.1	37.7	3.8	9.4
60歳以上	21	9	6	5	1
	100.0	42.9	28.6	23.8	4.8

重視する観光情報源（複数回答）

（単位：上段：人、下段：%）

	合計	テレビ番組（コマーシャル含む）	ラジオ番組（コマーシャル含む）	旅行雑誌（広告含む）	新聞記事（広告含む）	旅行ガイドブック	観光地のパンフレット	旅行エージェント	イベント	電車や駅の広告	インターネット（携帯電話含む）	ダイレクトメール	口コミ	その他
全体	676	204	16	290	112	367	262	70	60	81	458	25	140	8
	100.0	30.2	2.4	42.9	16.6	54.3	38.8	10.4	8.9	12.0	67.8	3.7	20.7	1.2
20代	113	30	3	50	11	64	39	13	9	14	76	0	28	0
	100.0	26.5	2.7	44.2	9.7	56.6	34.5	11.5	8.0	12.4	67.3	0.0	24.8	0.0
30代	267	82	6	128	37	154	99	22	27	39	176	6	57	5
	100.0	30.7	2.2	47.9	13.9	57.7	37.1	8.2	10.1	14.6	65.9	2.2	21.3	1.9
40代	192	51	4	68	30	92	86	20	17	19	136	8	41	2
	100.0	26.6	2.1	35.4	15.6	47.9	44.8	10.4	8.9	9.9	70.8	4.2	21.4	1.0
50代	75	29	2	33	17	41	25	8	6	6	54	4	11	1
	100.0	38.7	2.7	44.0	22.7	54.7	33.3	10.7	8.0	8.0	72.0	5.3	14.7	1.3
60歳以上	29	12	1	11	17	16	13	7	1	3	16	7	3	0
	100.0	41.4	3.4	37.9	58.6	55.2	44.8	24.1	3.4	10.3	55.2	24.1	10.3	0.0

※一般的に修学旅行は高校生以下が対象となる。回答者の年齢を20歳以上としているため、本設問での対象となる旅行が修学旅行である可能性は低いと考えられる。

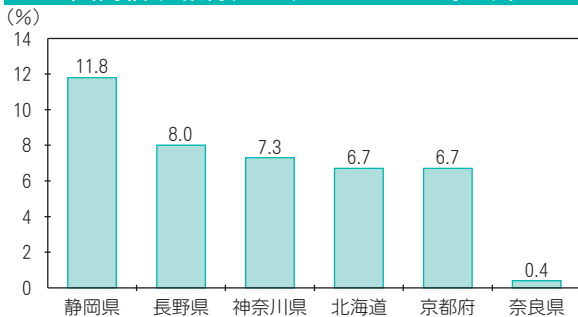
#### 4. 旅行先（都道府県）

上記質問で国内宿泊旅行をしたと回答した人465人に対し、旅行先（都道府県）を尋ねたところ、1位は「静岡県」（11.8%）、2位は「長野県」（8.0%）となった。また、トップ5は以下の通りである。なお、奈良県に宿泊した人は465人中2人（0.4%）だった。

※行程が複数の都道府県にまたがった場合は、主なものを1つ回答。

国内宿泊旅行先のトップ5の行程をみると、静岡県、長野県、神奈川県は1泊2日が最も多い。北海道では2～3泊が最も多く、4泊以上も比較的多い。京都府は2泊3日の行程が最も多かった。

#### 国内宿泊旅行先トップ5および奈良県



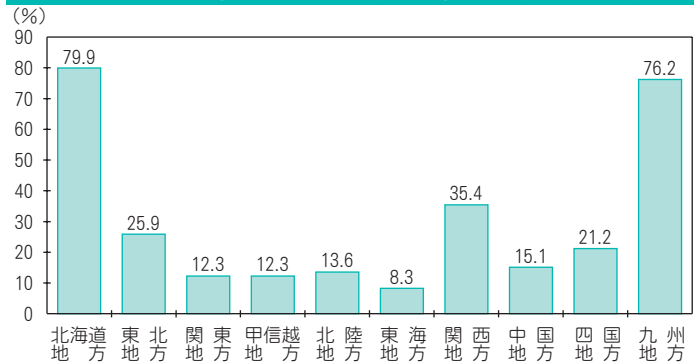
#### 国内宿泊旅行先トップ5および奈良県の旅行日程別割合

	合計	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日以上
静岡県	55 100.0	34 61.8	19 34.5	2 3.6	0 0.0
長野県	37 100.0	16 43.2	11 29.7	5 13.5	5 13.5
神奈川県	34 100.0	29 85.3	5 14.7	0 0.0	0 0.0
北海道	31 100.0	3 9.7	11 35.5	11 35.5	6 19.4
京都府	31 100.0	7 22.6	18 58.1	3 9.7	3 9.7
奈良県	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0

#### 5. 行ってみたい国内観光地（地方）

今後（概ね5年以内）、宿泊を伴う旅行で行ってみたい国内の観光地（3か所）を地方単位で尋ねた（宿泊日数は問わない）。地方の区分は以下の表の通りである。

#### 行ってみたい国内観光地（地方単位）（複数回答）



最も多かったのは北海道地方の79.9%、以下、九州地方（76.2%）、関西地方（35.4%）と続き、関西地方は行ってみたい観光地のトップ3に選ばれたが、他の2地方に比べ割合は極端に低い。

年齢別に見た場合、60歳以上ではややバラツキがあるものの、概ね年齢別による差異はみられない。

#### 行ってみたい国内観光地（地方単位）

	合計	北海道地方	東北地方	関東地方	甲信越地方	北陸地方	東海地方	関西地方	中国地方	四国地方	九州地方
全体	676 100.0	540 79.9	175 25.9	83 12.3	83 12.3	92 13.6	56 8.3	239 35.4	102 15.1	143 21.2	515 76.2
20代	113 100.0	86 76.1	27 23.9	16 14.2	14 12.4	9 8.0	10 8.8	48 42.5	16 14.2	22 19.5	91 80.5
30代	267 100.0	219 82.0	63 23.6	39 14.6	29 10.9	23 8.6	18 6.7	106 39.7	39 14.6	55 20.6	210 78.7
40代	192 100.0	158 82.3	54 28.1	16 8.3	22 11.5	37 19.3	15 7.8	53 27.6	24 12.5	46 24.0	151 78.6
50代	75 100.0	59 78.7	20 26.7	8 10.7	12 16.0	14 18.7	10 13.3	25 33.3	17 22.7	13 17.3	47 62.7
60歳以上	29 100.0	18 62.1	11 37.9	4 13.8	6 20.7	3 31.0	3 10.3	7 24.1	7 20.7	6 24.1	16 55.2

#### 地方の区分（都道府県名）

北海道地方	北海道	甲信越地方	長野県	中国地方	鳥取県
東北地方	青森県	東海地方	静岡県	四国地方	島根県
	秋田県		愛知県		山口県
	山形県		岐阜県		徳島県
	岩手県		三重県		香川県
	宮城県		富山県		高知県
関東地方	福島県	北陸地方	石川県	九州地方	愛媛県
	東京都	関西地方	福井県		福岡県
	神奈川県		滋賀県		佐賀県
	埼玉県		京都府		長崎県
	千葉県		大阪府		大分県
	群馬県		兵庫県		熊本県
	茨城県		奈良県		宮崎県
栃木県	和歌山県		鹿児島県		
甲信越地方	新潟県	中国地方	岡山県	沖縄県	
	山梨県		広島県		

特集

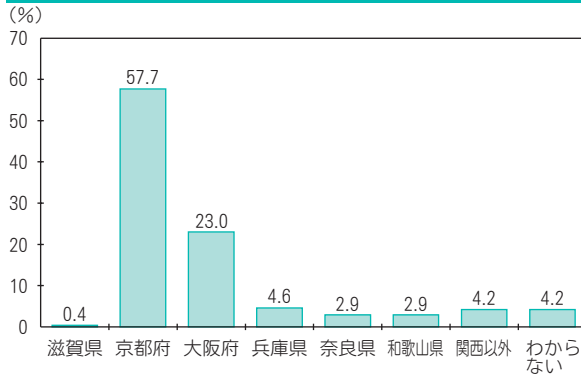
6. 関西地方（近畿2府4県）での宿泊場所

上記質問で関西地方と回答した人239人に対し、関西地方へ宿泊旅行をする場合に、どこで宿泊するかを都道府県名で尋ねた。

(1) 1泊2日の場合

行程が1泊2日の場合、京都府での宿泊が57.7%と圧倒的に多く、次いで大阪府の23.0%となった。上位2位で全体の8割以上を占め、他の県はいずれも少数だった。ちなみに奈良県で宿泊と回答した人は239人中7人の2.9%だった。なお、年齢別では大きな差異はみられなかった。

関西地方への旅行での宿泊場所（1泊2日）



(2) 2泊3日の場合

行程が2泊3日の場合、「京都府、大阪府」(\*)が65人と全体の27.2%を占めトップである。以下、「京都府、京都府」の18.8% (45人)、「京都府、奈良県」の15.9% (38人)と続く。

また、「京都府、京都府」と「京都府、他府県」

宿泊場所パターン、トップ5

	都道府県	人数	%
1位	京都府、大阪府	65	27.2
2位	京都府、京都府	45	18.8
3位	京都府、奈良県	38	15.9
4位	京都府、兵庫県	21	8.8
5位	大阪府、大阪府	13	5.4
合計		239	100.0

\*本設問において「京都府、大阪府」とは、「京都府と大阪府のそれぞれで1泊する宿泊」、「京都府、京都府」とは「京都府で2泊する宿泊」のことをいう。なお、泊まる順番は考慮していない。

を合計すると186人(77.8%)となり、2泊3日の行程では8割近くの人が京都府に宿泊している。

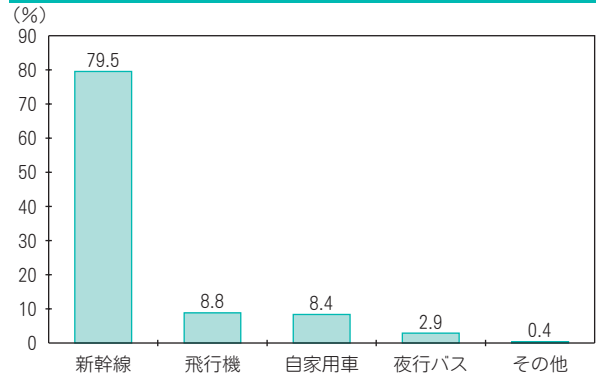
次に奈良県で宿泊するパターンをみると、「京都府、奈良県」(38人：前掲)が多いほかは「大阪府、奈良県」が3人、「奈良県、奈良県」、「滋賀県、奈良県」が各2人、「奈良県、和歌山県」が1人となり、いずれも少数である。なお「兵庫県、奈良県」はなかったが、2009年3月、阪神なんば線の開通後、奈良、神戸・三宮間が乗り換えなしに移動できることから、「兵庫県、奈良県」という宿泊形態が増える可能性はある。

(3) 首都圏から関西に入る際に利用したい交通手段

首都圏から関西地方へ入る際に利用したい交通手段について尋ねた。

「新幹線」が79.5%と圧倒的に多く8割近くを占める。「飛行機」や「自家用車」の利用は8.8%、8.4%と少数だった。なお、年齢別では大きな差異はみられなかった。

関西に入る際に利用したい交通手段



3 奈良県に関して

以下の項目に関しては、奈良県に関して尋ねたものである。

1. 奈良県への訪問回数（観光）

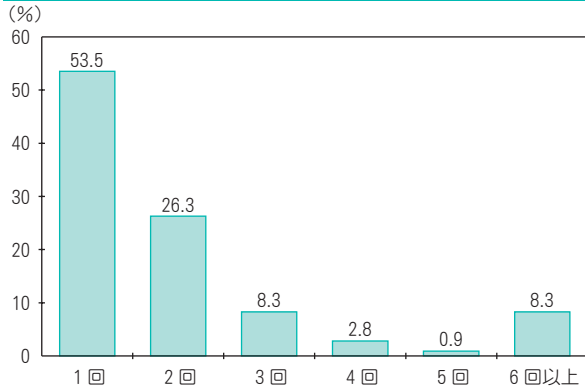
観光での奈良県への訪問回数を尋ねたところ、「一度もない」との回答は14.5%で、85.5%の人

は少なくとも1回は奈良県を訪れている。

次に、訪問経験があると回答した578人を回数別にみると「1回」が53.5%、「2回」が26.3%、「3回」が8.3%と回数が多くなるにつれて割合は低くなる。「6回以上」は8.3%だった。

年齢別にみると、訪問回数「6回以上」は40代(11.4%)、50代(14.7%)、60歳以上(25.9%)で比較的高率となった。

奈良県への訪問回数



奈良県への訪問回数(年齢別) (単位: 上段: 人, 下段: %)

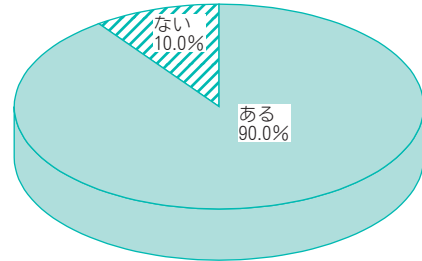
	合計	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
全体	578	309	152	48	16	5	48
	100.0	53.5	26.3	8.3	2.8	0.9	8.3
20代	87	55	22	5	3	0	2
	100.0	63.2	25.3	5.7	3.4	0.0	2.3
30代	221	147	49	9	5	2	9
	100.0	66.5	22.2	4.1	2.3	0.9	4.1
40代	175	74	55	20	6	0	20
	100.0	42.3	31.4	11.4	3.4	0.0	11.4
50代	68	29	20	6	2	1	10
	100.0	42.6	29.4	8.8	2.9	1.5	14.7
60歳以上	27	4	6	8	0	5	7
	100.0	14.8	22.2	29.6	0.0	7.4	25.9

## 2. 修学旅行での訪問の有無

上記項目で奈良県への観光訪問が「ある」人578人に対し、修学旅行での訪問の有無を尋ねた。

修学旅行で奈良県を訪れたことの「ある」人は90.0% (520人) で、「ない」人の10.0% (58人) を大きく上回った。なお、年齢別では大きな差異はみられなかった。

修学旅行での奈良県への訪問



## 3. 修学旅行における奈良県の総合的な印象

上記項目で、修学旅行での訪問経験がある人(520人)に対し、その時の総合的な印象について尋ねた。

全体では「良い(24.2%)」と「どちらかといえば良い(33.3%)」の合計で6割近くを占める。一方、「悪い(0.4%)」、「どちらかといえば悪い(2.3%)」は少数で、総合的な評価は概ね良い。

年齢別では「良い」+「どちらかといえば良い」の割合が30代でやや低く、60歳以上が高くなっている。

修学旅行での印象 (単位: 上段: 人, 下段: %)

	合計	良い	どちらかといえば良い	普通	どちらかといえば悪い	悪い	わからない/憶えていない
全体	520	126	173	175	12	2	32
	100.0	24.2	33.3	33.7	2.3	0.4	6.2
20代	77	20	25	24	2	1	5
	100.0	26.0	32.5	31.2	2.6	1.3	6.5
30代	208	41	65	85	3	1	13
	100.0	19.7	31.3	40.9	1.4	0.5	6.3
40代	152	42	51	47	3	0	9
	100.0	27.6	33.6	30.9	2.0	0.0	5.9
50代	61	14	23	16	4	0	4
	100.0	23.0	37.7	26.2	6.6	0.0	6.6
60歳以上	22	9	9	3	0	0	1
	100.0	40.9	40.9	13.6	0.0	0.0	4.5

## 4. 奈良県への旅行での宿泊場所(都道府県)

奈良県への訪問経験がある人(578人)に対し、直近に奈良県を訪れた旅行での宿泊場所(都道府県)を尋ねた。なお、本設問では複数泊の場合が想定されるため複数回答とした。

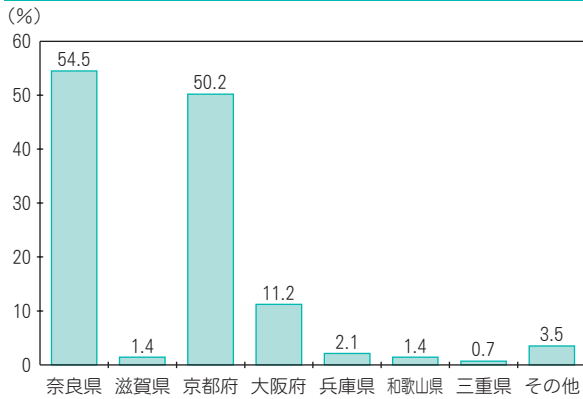
※本設問では、訪問時期を「直近」としているため、回答者が何年前に旅行したのかは不明である。また、設問の答えが修学旅行の場合もありうる。

特集

宿泊場所は「奈良県」が最も多く 54.5% (315 人) を占めるが、第 2 位の「京都府」も 50.2% (290 人) とさほど変わらない。第 3 位の大阪府は 11.2% (65 人) となり、割合は大きく低下する。

質問が「奈良県を訪問する観光での宿泊場所」であるため、当然「奈良県」での宿泊が多くなるが、ほぼ同数が「京都府」に宿泊していることがわかる。

奈良県への旅行での宿泊場所（複数回答）

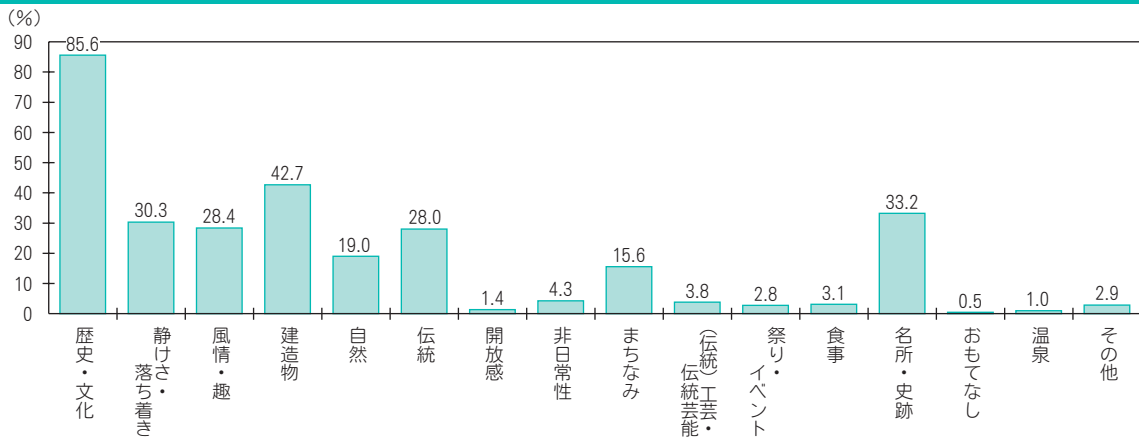


5. 奈良県の魅力（観光）

奈良県への訪問経験がある人（578 人）に対し、奈良県の魅力について尋ねた。

最も多かったのが「歴史・文化」の 85.6% で、他を大きく引き離している。次いで「建造物（42.7%）」、「名所・史跡（33.2%）」、「静けさ・落ち着き（30.3%）」と続いている。

奈良県の魅力（複数回答）



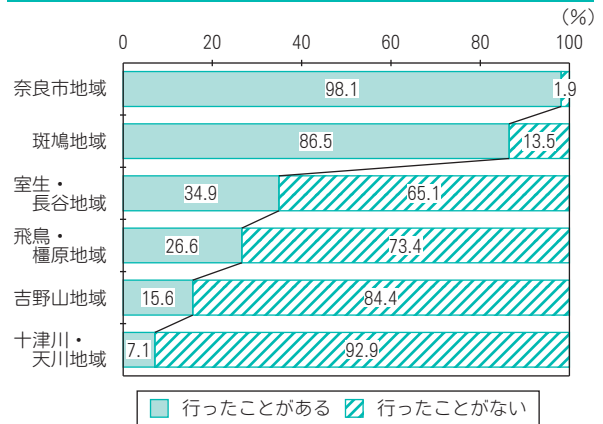
一方、「おもてなし」(0.5%)、「温泉」(1.0%)、「開放感」(1.4%)、「祭り・イベント」(2.8%)、「食事」(3.1%) は少数だった。なお、年齢別に見た場合、大きな差異はみられなかった。

6. 訪問経験

奈良県の観光エリア 6 か所（奈良市地域、斑鳩地域、室生・長谷地域、飛鳥・橿原地域、吉野山地域、十津川・天川地域）について訪問の経験を尋ねた。

奈良市地域は「行ったことがある」が 98.1% と非常に高く、斑鳩地域も同 86.5% と高い。一方、室生・長谷地域、飛鳥・橿原地域、吉野山地域、十津川・天川地域では「行ったことがない」が過半数を占めている。特に、十津川・天川地域では「行ったことがある」は 7.1% と少数である。

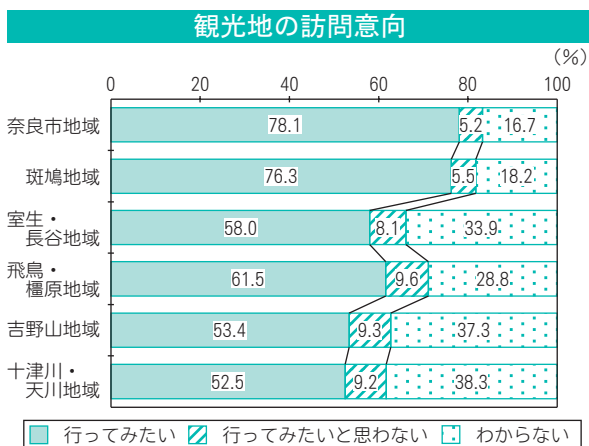
訪問経験の有無



## 7. 今後の訪問意向

上記観光エリアへの今後の訪問意向について尋ねた。奈良市地域、斑鳩地域は「行ってみたい」が78.1%、76.3%と高い。以下、飛鳥・橿原地域(61.5%)、室生・長谷地域(58.0%)、吉野山地域(53.4%)、十津川・天川地域(52.5%)と続いている。

上記項目6.で訪問経験割合の高かった「奈良市地域」や「斑鳩地域」が他地域よりも今後の訪問意向も高い傾向がみられる。



## 8. 伝統行事・イベントへの訪問経験および認知度

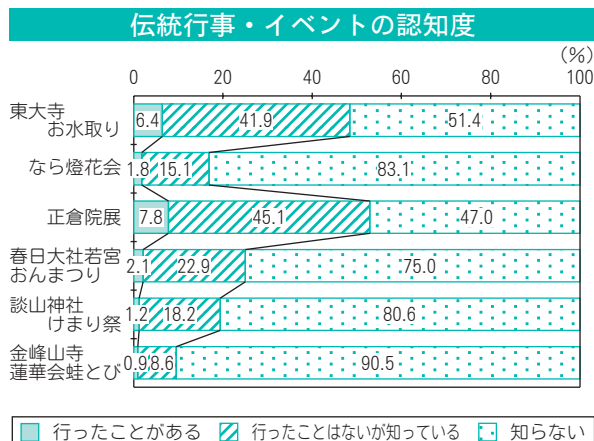
奈良県を代表する以下の6つの伝統行事・イベント等について、訪問経験の有無および認知度を尋ねた。

全般的に「行ったことがある」は少なく、正倉院展の7.8%がトップ。以下、「東大寺お水取り」(6.4%)、「春日大社若宮おんまつり」(2.1%)、「なら燈花会」(1.8%)、「談山神社けまり祭」(1.2%)、「金峯山寺 蓮華会蛙とび」(0.9%)となった。

「行ったことはないが知っている」は「正倉院展」(45.1%)、「東大寺お水取り」(41.9%)が比較的高く、以下、「春日大社若宮おんまつり」(22.9%)

- <伝統行事・イベント等>
- ①東大寺お水取り(修二会): 奈良市
  - ②なら燈花会: 奈良市
  - ③正倉院展: 奈良市
  - ④春日大社若宮おんまつり: 奈良市
  - ⑤談山神社 けまり祭: 桜井市
  - ⑥金峯山寺 蓮華会 蛙とび: 吉野郡吉野町

「談山神社けまり祭」(18.2%)、「なら燈花会」(15.1%)、「金峯山寺 蓮華会蛙とび」(8.6%)となった。「知らない」は正倉院展の47.0%を除いて全てが過半数を占めた。

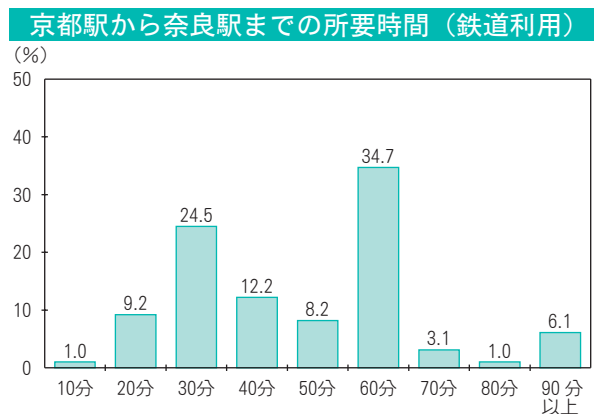


## 9. 京都駅から奈良駅までの所要時間

京都から近鉄またはJRを利用して奈良に入る場合、京都駅から奈良駅までの「乗り換え時間を含まない所要時間」を奈良県への訪問経験がない人98人に10分刻み(10分~90分以上)で尋ねた。不明の場合、回答者自身の持つ感覚で回答してもらった。

なお、所要時間は、近鉄特急で約35分、同急行およびJRみやこ路快速で約45分である。

回答を見ると、「30分」が24.5%、「40分」が12.2%、「50分」が8.2%となるが、最も多かったのは「60分」(34.7%)で3人に1人が回答している。





特集

また、「70分」(3.1%)、「80分」(1.0%)、「90分以上」(6.1%)との回答もみられ、実際よりも多く時間がかかると思っている人が4割以上存在する。

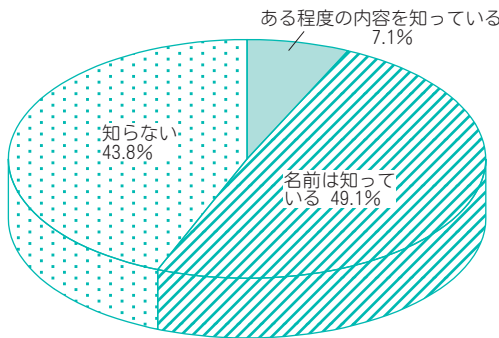
10. 平城遷都1300年祭の認知度

平城京に都が移った710年から1300年目にあたる2010年に開催が予定されている、「平城遷都1300年祭」の認知度について尋ねた。

「ある程度の内容を知っている」は7.1%、「名前は知っている」は49.1%だった、一方、「知らない」は43.8%だった。

年齢別にみると、60歳以上で「ある程度の内容を知っている」がやや多いほかは、大きな差異はみられない。

平城遷都1300年祭の認知度



平城遷都1300年祭の認知度 (単位: 上段: 人、下段: %)

	合計	平城遷都1300年祭の認知度		
		ある程度の内容を知っている	名前は知っている	知らない
全体	676	48	332	296
	100.0	7.1	49.1	43.8
20代	113	11	52	50
	100.0	9.7	46.0	44.2
30代	267	15	127	125
	100.0	5.6	47.6	46.8
40代	192	13	96	83
	100.0	6.8	50.0	43.2
50代	75	4	42	29
	100.0	5.3	56.0	38.7
60歳以上	29	5	15	9
	100.0	17.2	51.7	31.0

11. 平城遷都1300年祭のマスコットキャラクター

平城遷都1300年祭のマスコットキャラクターである「せんとかん」、「まんとくん」を知って

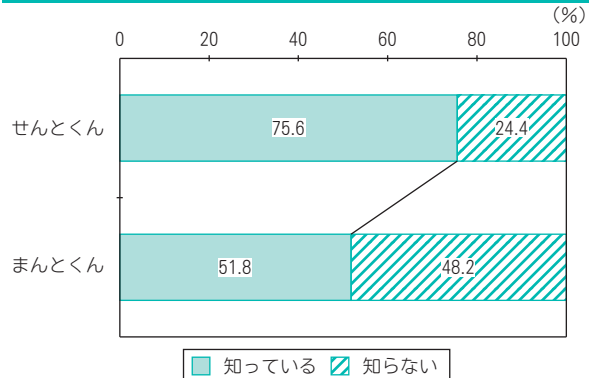
るかどうか尋ねた。

「せんとかんを知っている」のは75.6%、「まんとくんを知っている」のは51.8%となった。

年齢別にみると、「せんとかん」では50代、60歳以上で「知っている」割合がやや低いものの、他の年代では75%前後となっている。一方、「まんとくん」では20代、30代、40代で「知っている」割合が過半数となっているが、50代、60歳以上では逆に「知らない」割合が過半数を占めた。

両者の認知度の差については、発表した日のズレもあり、単純に比較することはできないが、年齢別に見た場合、両者とも概ね年齢が若いほど認知度が高いという傾向がみとれる。

マスコットキャラクターの認知度



マスコットキャラクターの認知度 (単位: 上段: 人、下段: %)

	合計	マスコットキャラクターの認知度			
		せんとかん		まんとくん	
		知っている	知らない	知っている	知らない
全体	676	511	165	350	326
	100.0	75.6	24.4	51.8	48.2
20代	113	88	25	67	46
	100.0	77.9	22.1	59.3	40.7
30代	267	204	63	140	127
	100.0	76.4	23.6	52.4	47.6
40代	192	147	45	97	95
	100.0	76.6	23.4	50.5	49.5
50代	75	53	22	34	41
	100.0	70.7	29.3	45.3	54.7
60歳以上	29	19	10	12	17
	100.0	65.5	34.5	41.4	58.6

12. 平城遷都1300年祭への興味

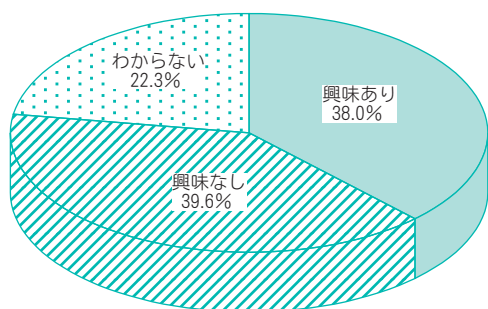
現段階で平城遷都1300年祭に興味があるかについて尋ねた。なお、「平城遷都1300年祭実施基

本計画（平城遷都 1300 年記念事業協会）」を掲載しているホームページを参考にして回答してもらった。

平城遷都 1300 年祭について「興味がある」とした人は全体の 38.0%、「興味がない」とした人が 39.6%となり、興味がない人が 1.6 ポイント上回った。なお、「わからない」とした人は 22.3%だった。

年齢別にみると、60 歳以上で「興味がある」とする回答がやや多いものの、総じて大きな差異はみられない。

平城遷都1300年祭への興味



平城遷都1300年祭への興味 (単位、上段：人、下段：%)

	合計	興味がある	興味はない	わからない
全体	676	257	268	151
	100.0	38.0	39.6	22.3
20代	113	47	47	19
	100.0	41.6	41.6	16.8
30代	267	100	102	65
	100.0	37.5	38.2	24.3
40代	192	67	80	45
	100.0	34.9	41.7	23.4
50代	75	28	30	17
	100.0	37.3	40.0	22.7
60歳以上	29	15	9	5
	100.0	51.7	31.0	17.2

### 13. 平城遷都1300年祭参加の有無

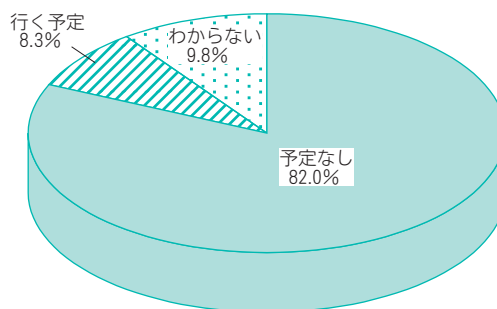
現段階で「平城遷都 1300 年祭に行きたい」と思うかどうか尋ねた。

「行く（行く予定である）、行きたいと思っている」とした人は全体の 8.3%、「今のところ予定はない」とした人は 82.0%となり、「今のところ

る予定はない」が圧倒的に多かった。また、「わからない」は 9.8%だった。

年齢別にみると、60 歳以上で「行く（行く予定である）」がやや多い他は大きな差異はみられなかった。

平城遷都1300年祭参加の有無



平城遷都1300年祭参加の有無 (単位、上段：人、下段：%)

	合計	行く（行く予定である）、行きたいと思っている	今のところ予定はない	わからない
全体	676	56	554	66
	100.0	8.3	82.0	9.8
20代	113	9	92	12
	100.0	8.0	81.4	10.6
30代	267	20	220	27
	100.0	7.5	82.4	10.1
40代	192	13	158	21
	100.0	6.8	82.3	10.9
50代	75	7	65	3
	100.0	9.3	86.7	4.0
60歳以上	29	7	19	3
	100.0	24.1	65.5	10.3

### 14. 平城遷都1300年祭開催の奈良県訪問への影響

上記平城遷都 1300 年祭に「行く（行く予定である）、行きたいと思っている」と答えた人（56 人）に対し、「平城遷都 1300 年祭がなかったとしたら、奈良県に行くかどうか」を尋ねた。

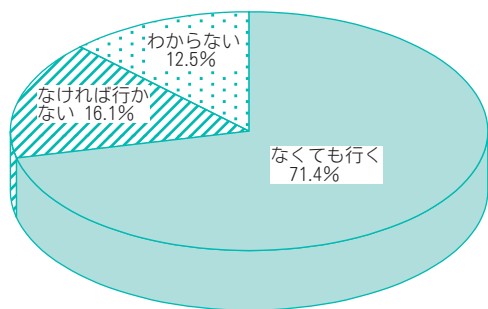
「平城遷都 1300 年祭がなくても行く（行く予定である）」とした人は全体の 71.4%と 7 割以上を占めた。一方、「平城遷都 1300 年祭がなければ行かない（行かない予定である）」とした人は 16.1%と少数だった。また、「わからない」とした人は 12.5%だった。なお、年齢別による大きな差

## 特集

異はみられない。

このように、「行く（行く予定である）」と答えた人のうち7割以上は、平城遷都1300年祭があるから奈良県を訪れるのではなく、仮に平城遷都1300年祭行われなくても訪れると回答している。

## 平城遷都1300年祭がない場合の参加予定



## 平城遷都1300年祭参加の有無による訪問への影響（単位：人、下段：%）

	合計	「平城遷都1300年祭」がなくても奈良県へ行く	「平城遷都1300年祭」がなければ奈良県へ行かない	わからない
全体	56	40	9	7
	100.0	71.4	16.1	12.5
20代	9	7	0	2
	100.0	77.8	0.0	22.2
30代	20	16	3	1
	100.0	80.0	15.0	5.0
40代	13	8	4	1
	100.0	61.5	30.8	7.7
50代	7	5	1	1
	100.0	71.4	14.3	14.3
60歳以上	7	4	1	2
	100.0	57.1	14.3	28.6

## 4 調査結果からみた現実

## 1. 国内旅行全般

アンケート調査結果から、首都圏在住者が希望する旅行のタイプとして上位にあがったものは「温泉旅行」や「周遊観光」といったタイプだった。年齢別にみても大きな差異はみられず、温泉旅行や周遊観光には根強い人気があるものと思われる。

重視する観光情報源としては、携帯電話やパソコンでの「インターネット」と紙媒体である「旅

行ガイドブック」や「旅行雑誌」が上位を占めた。

行程と旅行先（都道府県）をみると、今後5年以内に行ってみたい国内旅行先としては北海道地方、九州地方など比較的遠方が上位となっているが、過去1年以内の実際の旅行は半数以上が1泊2日で、静岡県、長野県、神奈川県といった比較的近い観光地が中心であった。

実際問題として、行ってみたい観光地には願望の要素が含まれており、現実の旅行とはかけ離れている場合がある。そう考えると、行ってみたい地方の3番目だった関西地方は、北海道地方や九州地方に比べ地理的に近く、金額的にみても有利と考えられる。

今後、関西地方へ旅行したいとした人が宿泊を希望した場所は、1泊2日の場合は京都府が57.7%、大阪府が23.0%となり、奈良県は2.9%と極端に少ない。2泊3日の場合は奈良県での連泊は少なく、奈良県1泊、京都府1泊など「奈良県と他府県との組み合わせ」を合計しても19.2%にすぎない。

## 2. 奈良県の魅力について

「希望する旅行タイプ」の質問で「温泉旅行」が7割以上の回答を得てトップ、「ゆったりすごす」は5割近くで第4位だったが、一方で奈良県の魅力には「温泉」の回答は少なかった。しかし、首都圏には近隣に伊豆、箱根、草津など有名な温泉が多い。「温泉」に入り「ゆったりすごす」なら、わざわざ遠くまで足を運ばなくても近くで十分である。

一方、「希望する旅行タイプ」の質問で第2位となった「名所・史跡を巡る周遊観光」に関連しては、奈良県の魅力の中で「歴史・文化」や「名所・史跡」の項目が高い支持を得ている。特に50代、60歳以上での回答が多く、一般的に言われる「奈良県観光客の主力は中高年齢層」であることを裏付ける結果となった。

## 3. 修学旅行後の訪問に関して

前章の「1. 奈良県への訪問回数」と「2. 修学

旅行での訪問の有無」をクロス集計した。

奈良県への訪問経験がある人（578人）の中で修学旅行での訪問がある人は520人だった。また、520人のうち訪問回数が1回の人は54.6%の284人（回答者全体では42.0%にあたる）だった。これは、回答者全体のうち42.0%の人は修学旅行で奈良県を訪問した後は、一度も奈良県に行っていないことを示している。

回答者の年齢が若いほど、現在と修学旅行との間隔が短く、その分2回目の奈良県訪問の割合は当然低くなるから、このことを割り引いて考える

訪問回数別の訪問経験および今後の訪問意向（奈良市地域）（単位：人、下段：%）

	合計	訪問経験			今後の訪問意向		
		行ったことがある	行ったことがない	知らない	行ってみたいと思う	行ってみたいと思わない	わからない
全体	578	567	11	528	35	113	
	100.0	98.1	1.9	78.1	5.2	16.7	
1回	309	300	9	234	20	55	
	100.0	97.1	2.9	75.7	6.5	17.8	
2回	152	150	2	124	4	24	
	100.0	98.7	1.3	81.6	2.6	15.8	
3回	48	48	0	46	1	1	
	100.0	100.0	0.0	95.8	2.1	2.1	
4回	16	16	0	13	2	1	
	100.0	100.0	0.0	81.3	12.5	6.3	
5回	5	5	0	4	0	1	
	100.0	100.0	0.0	80.0	0.0	20.0	
6回以上	48	48	0	40	3	5	
	100.0	100.0	0.0	83.3	6.3	10.4	
一度もない	0	0	0	67	5	26	
	0.0	0.0	0.0	68.4	5.1	26.5	

年齢別訪問回数（対象：修学旅行での訪問あり）（単位：人、下段：%）

	合計	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
全体	520	284	142	41	15	4	34
	100.0	54.6	27.3	7.9	2.9	0.8	6.5
20代	77	49	21	4	2	0	1
	100.0	63.6	27.3	5.2	2.6	0.0	1.3
30代	208	139	47	8	5	1	8
	100.0	66.8	22.6	3.8	2.4	0.5	3.8
40代	152	69	50	16	6	0	11
	100.0	45.4	32.9	10.5	3.9	0.0	7.2
50代	61	25	19	6	2	1	8
	100.0	41.0	31.1	9.8	3.3	1.6	13.1
60歳以上	22	2	5	7	0	2	6
	100.0	9.1	22.7	31.8	0.0	9.1	27.3

必要はあるが、30代で63.6%、40代で45.4%、50代で41.0%が修学旅行のみの訪問に止まっている。一方で、奈良県への修学旅行での総合的な印象については、どの年齢層をみても概ね良好であった。

修学旅行での印象が良いか悪いかは、観光客がリピーターとしてその地を訪れるかどうかの判断材料の一つとなる。奈良県の場合、修学旅行の印象が概ね良いことから考えると、修学旅行の後、再び奈良県を訪れない理由に「修学旅行の印象」はさほど影響していないように思われる。

#### 4. 奈良市地域と伝統行事・イベントの認知度に関して

「奈良市地域」への訪問経験および奈良市で開催される伝統行事・イベントについて、取り上げる。

伝統行事・イベントの認知度（一部抜粋）

（単位：人、下段：%）

	合計	お水取り			なら燈花会			正倉院展			おんまつり		
		行ったことがある	行ったことがない	知らない	行ったことがある	行ったことがない	知らない	行ったことがある	行ったことがない	知らない	行ったことがある	行ったことがない	知らない
全体	676	43	283	350	12	102	562	53	305	318	14	155	507
	100.0	6.4	41.9	51.8	1.8	15.1	83.1	7.8	45.1	47.0	2.1	22.9	75.0
1回	309	12	115	182	4	26	279	16	118	175	4	52	253
	100.0	3.9	37.2	58.9	1.3	8.4	90.3	5.2	38.2	56.6	1.3	16.8	81.9
2回	152	5	80	67	1	31	120	12	82	58	4	44	104
	100.0	3.3	52.6	44.1	0.7	20.4	78.9	7.9	53.9	38.2	2.6	28.9	68.4
3回	48	5	28	15	1	14	33	8	28	12	1	17	30
	100.0	10.4	58.3	31.3	2.1	29.2	68.8	16.7	58.3	25.0	2.1	35.4	62.5
4回	16	0	11	5	0	4	12	2	10	4	0	5	11
	100.0	0.0	68.8	31.3	0.0	25.0	75.0	12.5	62.5	25.0	0.0	31.3	68.8
5回	5	2	3	0	1	2	2	0	3	2	0	2	3
	100.0	40.0	60.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	60.0	40.0	0.0	40.0	60.0
6回以上	48	18	25	5	4	19	25	12	32	4	5	21	22
	100.0	37.5	52.1	10.4	8.3	39.6	52.1	25.0	66.7	8.3	10.4	43.8	45.8
一度もない	98	0	22	76	0	7	91	0	35	63	0	14	84
	0.0	0.0	22.4	77.6	0.0	7.1	92.9	0.0	35.7	64.3	0.0	14.3	85.7

## 特集

奈良市地域は、観光客のほとんどが訪問している。しかも、今後の訪問意向についても過去の訪問回数に限らず高率となった。一方で伝統行事・イベントについては「行ったことがある」との回答が低調なうえ、「行ったことはないが知っている」との回答も「なら燈花会」や「春日大社若宮おんまつり」では少なかった。

伝統行事・イベントについては全体的に、「知らない」との回答が最も多かったのが「なら燈花会」(83.1%)で、以下「春日大社若宮おんまつり」(75.0%)、「東大寺お水取り」(51.8%)、「正倉院展」(47.0%)となった。

伝統行事・イベントは開催時期が決まっており、暑い時期、寒い時期に開催されるものもある。また、屋外開催では雨天中止といったリスクも存在するから、観光客が二の足を踏むことも否定できない。しかしながら、伝統行事・イベントについて観光客が「知っていればこそ行く」というアクションが起こるのであって、知らなければ決して「行く」ことにはならない。

## 5. 訪問経験の少ない観光地への訪問について

前章の「6. 訪問経験」において「行ったことがある」との回答が比較的少なかったのが、「室生・長谷地域」(34.9%)、「飛鳥・橿原地域」(26.6%)、「吉野山地域」(15.6%)、「十津川・天川地域」(7.1%)の4地域であった。一方で「7. 今後の訪問意向」で、「行ってみたい」との回答は、「室生・長谷地域」(58.0%)、「飛鳥・橿原地域」(61.5%)、「吉野山地域」(53.4%)、「十津川・天川地域」(52.5%)となり、いずれも過半数を占めている。

したがって、上記4地域については、今のところ訪問経験は少ないものの、平城遷都1300年祭の開催と相まって今後は観光客の増加が見込まれるのではないかとと思われる。

## 6. 平城遷都1300年祭の興味と訪問意向等

前章の「12. 平城遷都1300年祭への興味」と「13. 平城遷都1300年祭参加の有無」をクロス集計した。

平城遷都1300年祭に興味があるとした257人のうち「行く(行く予定である)」と回答した人は21.0%(54人)で、「今のところ予定はない」と回答した人は74.3%(191人)で圧倒的に多かった。

すなわち、平城遷都1300年祭自体には興味がある人であっても、その多くが、今のところ訪問の意思はないということを示している。

なお、「興味がない」人のほとんどは「今のところ予定はない」と回答している。

平城遷都1300年祭への興味と訪問意向 (単位: 上段: 人, 下段: %)

	合計	行く(行く予定である)、行きたいと思っている	今のところ予定はない	わからない
全体	676	56	554	66
	100.0	8.3	82.0	9.8
興味がある	257	54	191	12
	100.0	21.0	74.3	4.7
興味はない	268	2	261	5
	100.0	0.7	97.4	1.9
わからない	151	0	102	49
	100.0	0.0	67.5	32.5

## 5 終わりに

今回の調査はインターネットを利用して行ったことから、「回答者の多くはインターネットの利用頻度が高い」ということを前提に総括をしてみたい。

今回調査を行った首都圏在住者に関しては、奈良県の観光エリアのうち奈良市地域や斑鳩地域は、過去に何度も訪問したことのある人であっても、再び訪れたいと思っている人の割合が高い。一方で、「東大寺お水とり」や「なら燈花会」といった伝統行事やイベントを見た人は全般的に少なく、複数回奈良を訪れている観光客でさえ少ない。また、内容について知らないという人も多い。

伝統行事やイベントに関しては、観光客自身が

「知らない」という事実からは決して「行く」という行動は起こらない。しかし、逆に考えれば「知らない」人が、今後「知る」ことによって「行く」へ変化する可能性を秘めているといえる。

奈良県には古くから続く伝統的な行事や新しくできたイベント・祭りなど、オリジナリティの高いものが数多くある。また、近年、JR 東海等が奈良県の観光地や伝統行事・イベント等について積極的にPRを行っているが、観光客には情報が十分に伝わっていないのではないと思われる。

さらに、観光地を決定する際に、所要時間が京都駅から奈良駅まで「35分かかる」と「60分かかる」では大違いである。首都圏から奈良県に来訪する場合、新幹線を利用し京都駅から入る人がほとんどである以上、改めて、「奈良は京都から比較的近い」ということのPRも必要なのではないだろうか。

「飛鳥・橿原地域」など首都圏からの訪問経験が比較的少ない地域においても、今後「行ってみたい」との回答が過半数を占めたことから、平城遷都1300年祭と絡めて地域のPRをする絶好の機会ではないかと思われる。

平城遷都1300年祭に関しては、「行く（行く予定である）、行きたいと思っている」と答えた人は8.3%と少なく、8割以上の人々が「今のところ予定はない」と回答した。さらに、平城遷都1300年に興味を示した人でも、その多くは「行く予定はない」と答えている。開催まで1年以上あるとはいえ、公表されている内容についてやや具体性に欠けていることが影響してか低調であり、寂しい数字であると思われる。情報の発信は「遅すぎる」ことはあっても「早すぎる」ことはない。手遅れにならないように、できるだけ早く具体的な内容を公表して、観光客を惹きつけることも必要と思われる。

また、平城遷都1300年祭に行くとは回答した人に尋ねた「仮に平城遷都1300年祭がなければど



平城遷都1300年祭の会場となる平城宮跡に建つ朱雀門

うするか」という質問では、「なくても行く」という回答が7割を超えており、平城遷都1300年祭の開催がもたらす宿泊観光客増加の効果は、今のところ薄いと云わざるを得ない。

平城遷都1300年祭が開催される2010年の1年間については、観光客数は増加するであろう。しかし、たとえ観光客数や経済波及効果の目標が達成されたとしても、それで満足してはいけなない。もちろん2010年に観光客に来てもらうことが最優先であるが、平城遷都1300年祭を契機にして2011年以降も引き続き観光客を集客していく必要がある。

博覧会のように一過性のものであるなら、開催期間中に多くの観光客に来てもらえばよく、その後のことはさほど考える必要がない（極端に言えばその期間だけ人を集めればよい）。しかし、観光が、地域の活性化にとって「残された数少ないカードの一つ」である奈良県では、一時的な観光客の増加では済まされない。

奈良県が未来永劫発展していくためには、2011年以降、再度、再々度奈良県を訪れる人の流れを作っていくことが必要で、平城遷都1300年祭はそういった重要な役割も担っていると云われる。

（丸尾 尚史）